

経営比較分析表（平成30年度決算）

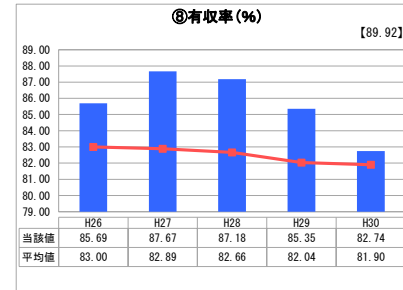
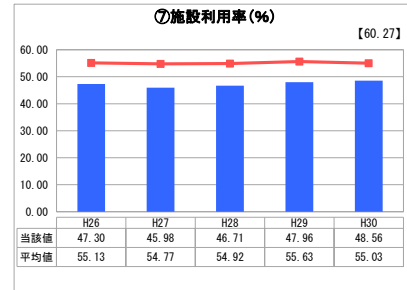
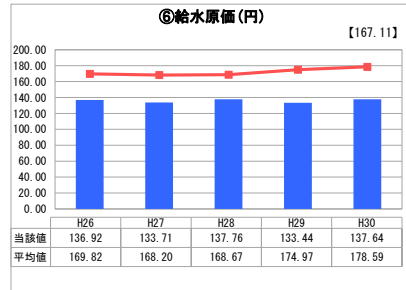
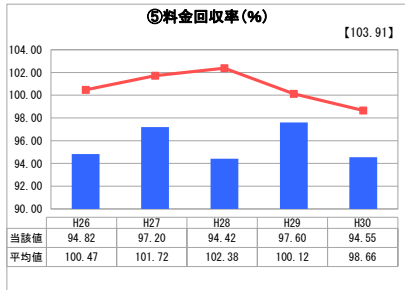
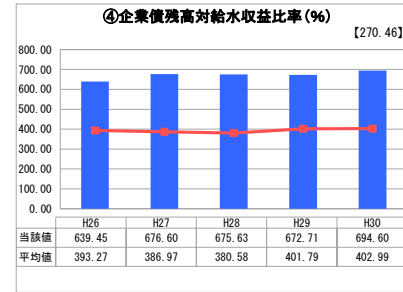
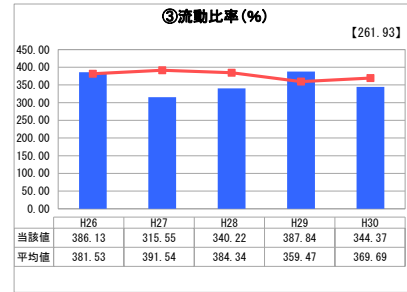
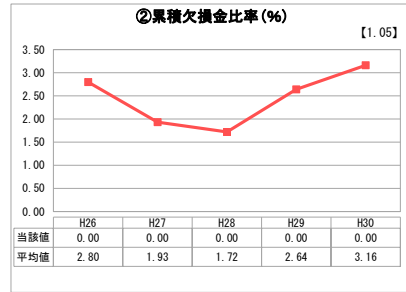
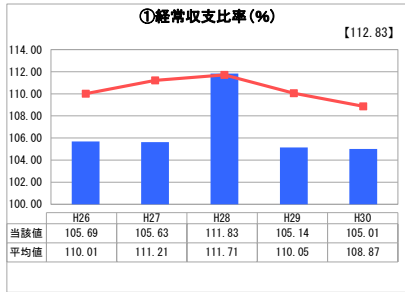
熊本県 山鹿市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	42.59	54.07	2,460	

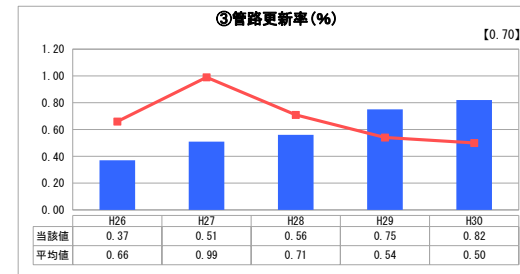
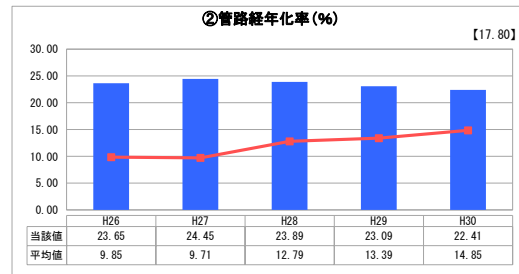
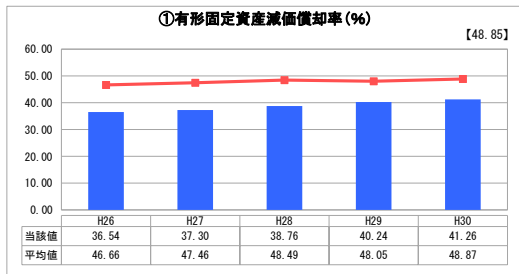
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
52,244	299.69	174.33
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,122	26.88	1,046.21

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 100%以上であり、健全な状態にある。今後、水需要に応じた経営規模の適正化により経費の節減を図り、更なる経営の健全化に努める。なお、平成28年度の比率が突出しているのは、他会計負担金（退職手当）の収入による一過性のものである。
- 累積欠損金が発生しておらず、健全な経営状態にある。
- 100%を超えており、短期債務に対する支払能力は十分である。
- 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値及び全国平均を超過している。これは、水源地・配水池整備において企業債を多く活用したためである。今後は、新規発行額の抑制、料金水準の適正化による財源の確保に努める。
- 原価割れの状態にあるため、経費の節減を図るとともに、適正な料金水準の検討を行う。
- 今後も維持管理費等の経費節減により原価の低減を図る。
- 将来の水需要の減少を考慮した施設の規模適正化による効率的な施設整備を行う。
- 計画的な老朽管更新や漏水防止対策を進めることで有収率を更に高め、収益の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

- 減価償却が進んでいるが、施設等の更新については、将来の水需要の減少を踏まえた施設等のダウンサイジング化を図りつつ、優先度の高い施設等から更新を進めていく。
- 類似団体平均値を上回っているが、漏水の発生があまりなく、有収率が高いため、耐用年数を経過した優先度の高い管路から更新を進める。
- 優先度の高い管路から計画的に更新を進める。

全体総括

経営状況は、経常収支比率及び流動比率は健全な水準を維持しているが、料金回収率が100%を下回っており、今後は人口減少による給水収益の減少も見込まれる。

また、施設・管路の老朽化が進んでおり、今後、更新需要の増大等が見込まれる。

このような状況を踏まえ、平成30年度にアセットマネジメントを策定、令和元年度に経営戦略を策定し、事業の規模適正化・集約化、料金水準の適正化等により持続可能な経営に努める。